



バリアフリー情報の共有・連携に関する検討

令和2年10月

政策統括官付



- バリアフリー情報の収集アプリでは、それぞれのユーザーのニーズにあった情報を収集しているが、多目的トイレ等、各アプリで横断的に収集されている情報も見られる
- 昨年度はバリアフリー情報について、民間アプリにおけるデータの共有や活用の可能性を検討するため、4つのアプリを用いたイベント形式のデータ収集実証を実施





- 実証にご協力いただいた4つのアプリ事業者を対象に、アプリ間での連携に向けた今後の意向や望ましいデータ連携の形式、連携に向けた課題に加え、自治体等が公開するオープンデータの活用の意向についてヒアリングを実施

ヒアリング概要	
概要	共同イベント開催後の、各アプリのデータ連携・オープンデータ活用に関する意向やデータ連携・オープンデータ活用に向けた課題を明らかにするため、ヒアリングを実施
ヒアリング対象	<p>実証に参加したアプリ事業者 4社 ((株)ミライロ (一社)WheeLog (株)ナビタイムジャパン (株)NTTデータ)</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">     </div>
ヒアリング項目	<p>アプリ間の連携の実施可能性</p> <ol style="list-style-type: none"> ① アプリ間の連携に向けた取り組み意向 ② 望ましいアプリ間連携の形式 ③ アプリ間の連携実現に向けた課題 ④ アプリ間の連携における国に期待される役割
	<p>オープンデータの活用可能性</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 自治体等のオープンデータの活用意向 ② 活用したいデータ ③ 自治体等のオープンデータの活用に向けた課題



○オープンデータ活用では、データのフォーマットや粒度の統一化、データに関わる関係者の同意取得、免責事項、利用範囲の整理などが想定される。これらの課題を踏まえながら、オープンデータ化・データ活用時の支援を行っていくことが必要。

オープンデータ化・オープンデータ活用の課題（想定）

想定される課題（仮説）

検討すべき観点

オープンデータ化

- データのオープン化に係る関係者の同意取得
- データ提供時の免責、利用範囲
- オープンデータの取りまとめ先がなく、個社毎に提供

- データ取得時にあらかじめオープンデータ化を見越して調整
- データ提供規約の留意点
- オープンデータサイト等の活用

オープンデータの活用

- データのフォーマット、粒度がバラバラで、データの統合・取り込みに係る労力が大きい
- 提供先ごとにバラバラのタイミングでデータが提供されるため、都度対応が必要

- アプリ事業者の使いやすいオープンデータデータフォーマット（データの粒度・語彙の互換性）
- 共通の施設IDを使用（既存データとの突合）
- データの定期的な更新
- オープンデータをとりまとめる組織・サイトの必要性



バリアフリーナビプロジェクト

バリアフリー情報のオープンデータ活用事例

○ 多目的トイレ等に関しては、すでに投稿サイトで収集されたデータや、大手民間事業者がオープンにしたデータをアプリに取り込んでデータを活用する事例が見られる

投稿情報の活用事例

- 多目的トイレ情報の投稿サイト「Check A Toilet」は収集した多目的トイレのデータをナビタイムジャパンが地図に取り込み、データを活用

『多機能トイレスポットデータ』の提供を開始

平成22年3月18日
株式会社ナビタイムジャパン
「NAVITIME」「EZナビウォーク」「EZ助手ナビ」
『多機能トイレスポットデータ』の提供を開始

株式会社ナビタイムジャパン(代表取締役社長:大西啓介、本社:東京都港区)は、トータルナビゲーションサービス「NAVITIME」、KDDI株式会社(代表取締役社長:小野寺正、本社:東京都千代田区)と協業で提供中の歩行者向けナビゲーションサービス「EZナビウォーク」及び乗車者向けナビゲーションサービス「EZ助手ナビ」において、2010年3月19日(木)より、『多機能トイレスポットデータ』の提供を開始いたします。

全国約2万5000件の「多機能トイレスポットデータ」の情報を特定非営利活動法人Check(代表理事:金子健二、本社:東京都世田谷区)より受け、カテゴリ検索やフリーワード検索で多機能トイレの場所を検索できるようになりました。また、トイレの場所だけでなく詳細情報画面にて、利用時間、ウォッシュレットや手すり、ペーパーの有無、トイレまでの段差の情報などを確認することができますので、高齢者の方や小さな子供連れの方のお出かけにも便利にお使いいただけます。ナビタイムジャパンでは、今後もお客様の多様なニーズにお応えするための、機能の充実を図り、さらなるサービスの向上に努めてまいります。

※多機能トイレの定義
多機能トイレとは、車いすやベビーカーなどで入ることができたり、手すりやペーパーシート等さまざまな設備を併設しているトイレです。

1. 概要

全国約2万5000件の「多機能トイレスポットデータ」の導入により、カテゴリ検索やフリーワード検索で多機能トイレの場所を検索できるようになりました。

また、トイレの場所だけでなく詳細情報画面にて、利用時間、ウォッシュレットや手すり、ペーパーの有無、トイレまでの段差の情報などを確認することができますので、高齢者の方や小さな子供連れの方のお出かけにも便利にお使いいただけます。

住所: 東京都中央区京橋2丁目
ジャンル: トイレ
設置施設: 交通機関
トイレまでの段差: 段差なし(5mm以下)
扉: 電動式
トイレ内設備: 介助者3人分スペース(電動車いす回転可能) L型手すり 可動手すり(水平に可動) 便座(前方アプローチ左側) 荷物置き
注釈: ※表示情報は自治体・施設事業者による提供やボランティアによるクチコミ情報をもとに表示しております。そのため実際と異なる場合がありますのでご了承ください。

情報提供: Check A Toilet

ナビタイムジャパン (2010年3月19日 プレスリリース)
『『多機能トイレスポットデータ』の提供を開始』

民間オープンデータの活用事例

- 大手コンビニチェーンが全国の多目的トイレ設置店舗の情報をオープン化
- WheelLog!アプリがデータを取り込み、データを活用

ファミリーマートの多目的トイレ設置店舗情報をバリアフリー地図情報アプリ「WheelLog(ウィーログ)」に提供
車いす利用の皆さまの移動をサポート

株式会社ファミリーマート(本社:東京都港区、代表取締役社長:須田昌司)は、車いすを利用されるお客さまもお使いいただける「多目的トイレ」の店舗情報の公開(※1)を、バリアフリー地図情報アプリ「WheelLog(※2)」(※3)と連携し、お客さまの移動をサポートいたします。

WheelLogは、2019年5月から「バリアフリー地図情報」を提供するアプリを開発しており、車いすを利用されるユーザーが目的地付近の多目的トイレの場所を簡単に検索し、目的地までのルートを確認することができます。また、2019年12月には、店舗検索アプリ「WheelLog」のスマートフォン版「WheelLog(※2)」を開発し、ユーザーが目的地付近の多目的トイレの場所を簡単に検索し、目的地までのルートを確認することができます。

WheelLog「車いす」でもおなじみの「車いす」のアイコンで、本アプリを通じてファミリーマートの多目的トイレ設置店舗の情報をWheelLogに提供することで、車いすをご利用の皆さまの移動をサポートすることができます。また、今後はファミリーマート・バスターミナルの両方に設置されている多目的トイレの情報をWheelLogに提供し、車いすをご利用の皆さまの移動をサポートいたします。

※1 WheelLogアプリの対応店舗: 日本橋、茨城、千葉県(国府津・柏)、群馬、山梨、長野、新潟、富山、石川、福井、岐阜、愛知、三重、滋賀、京都、大阪、奈良、和歌山、徳島、香川、高松、岡山、広島、山口、福岡、佐賀、熊本、大分、鹿児島、沖縄

【参考情報】
一般社団法人WheelLog協会
WheelLogは代表理事の藤田隆博氏が、自身の車いすでの移動体験をもとに立ち上げ、車いすの移動をサポートする地図情報アプリ「WheelLog」の開発・運営をしています。WheelLogは代表理事の藤田隆博氏が、自身の車いすでの移動体験をもとに立ち上げ、車いすの移動をサポートする地図情報アプリ「WheelLog」の開発・運営をしています。また、WheelLogは代表理事の藤田隆博氏が、自身の車いすでの移動体験をもとに立ち上げ、車いすの移動をサポートする地図情報アプリ「WheelLog」の開発・運営をしています。

ファミリーマート (2020年2月5日 プレスリリース)
「ファミリーマートの多目的トイレ設置店舗情報をバリアフリー地図情報アプリ「WheelLog! (ウィーログ)」に提供車いす利用の皆さまの移動をサポート」

【WheelLog!閲覧画面】

投稿したスポット

日本製鉄株式会社 大分製鐵所

不二かつ大分店

波渡学園 大分国際情報高

原新町

大分市大分東部公民館市民体育館

ファミリーマート・大分原新町店
トイレ
2020-02-04 11:36

ファミリーマート・大分汐見店
トイレ
2020-02-04 11:36

ファミリーマート・大分常行店
トイレ
2020-02-04 11:36

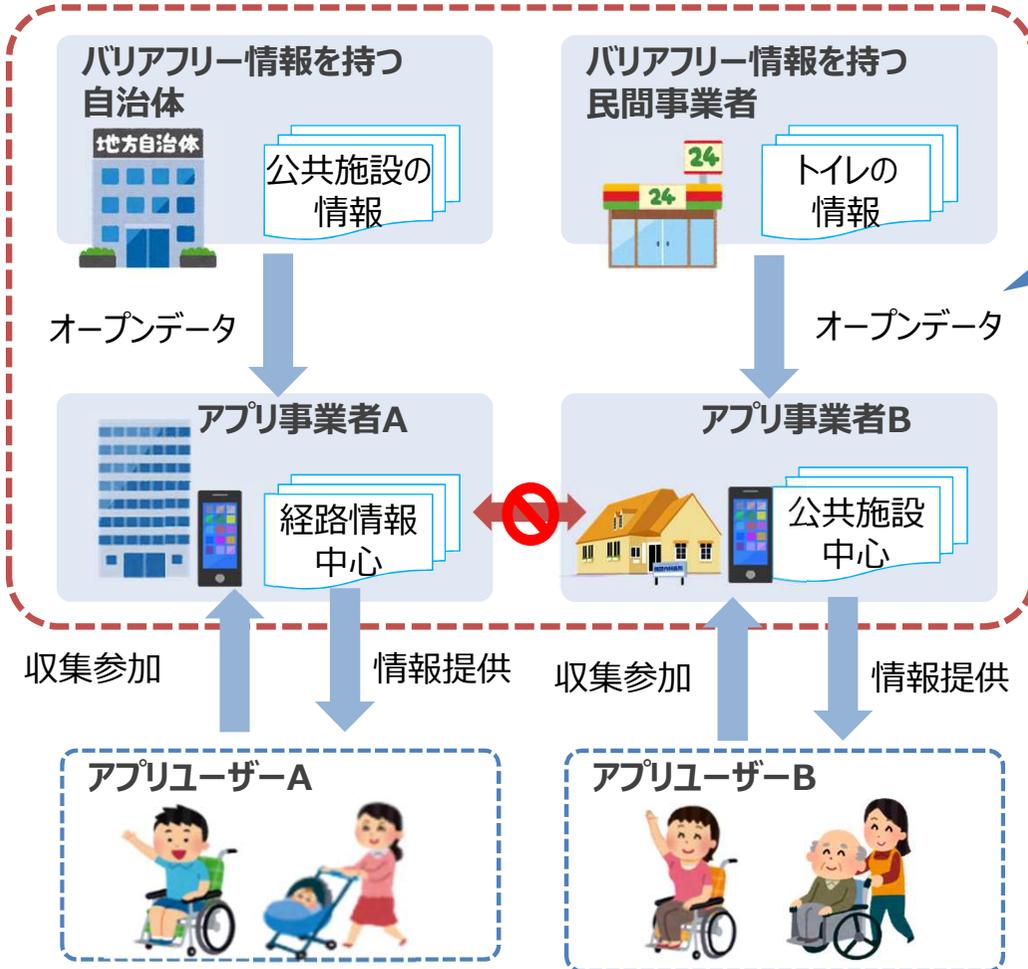
タイムライン
マップ
投稿
プロフィール
メニュー



今年度のデータの活用に関する検討の目標

- バリアフリー情報を持つ自治体・民間事業者に対して、オープンデータ化、オープンデータの活用意向等をそれぞれヒアリングを実施
- ヒアリングした結果を基に、実際にオープンデータ化とアプリ事業者へのデータ活用を促し、バリアフリー情報の充実とオープンデータ化促進に向けた課題を検討

バリアフリー情報の流れ



今年度の目標

背景

- ・ アプリ事業者は、ユーザーやスポンサーに対するアプリの差別化が困難になることから、アプリ相互のデータ連携に対して慎重だが、他社のオープンデータ活用の意向は高い
- ・ コロナ禍によりデータ収集イベント等の収集機会が減少する中、既存のデータをオープン化・活用することの重要性が高まると想定

今年度の目標

- バリアフリー情報を持つ自治体・民間事業者のオープンデータ化の促進
- アプリ事業者のオープンデータ活用の促進
- データのオープン化・活用に係る課題の把握



- 公共施設や飲食店のバリアフリー情報を持つ自治体や、小売事業者、金融機関、鉄道事業者、飲食情報投稿サービス事業者を対象にヒアリングを予定。
- アプリ事業者については、昨年度の実証協力団体を中心にヒアリングを実施する。

自治体・民間事業者の ヒアリング対象

ヒアリング対象	保有しているデータ
自治体	公共施設のバリアフリー情報
	飲食店のバリアフリー情報
民間事業者	小売事業者（全国チェーン） 店舗のバリアフリー情報
	金融機関 店舗のバリアフリー情報
	鉄道事業者 駅構内のバリアフリー情報
	飲食情報投稿サービス事業者 飲食店のバリアフリー情報

アプリ事業者 ヒアリング対象

ヒアリング対象	サービス名
(一社)WheeLog	WheeLog!
(株)ミライロ	Bmaps
(株)ナビタイムジャパン	やさしいちず
NPO法人Check	Check A Toilet
(株)Be-project	多目的トイレマップ

- 自治体・民間事業者に、保有データやオープンデータ化の意向、課題等に関するヒアリングを行う。アプリ事業者には、オープンデータ活用の意向、活用したいデータの種類の種類、課題等をヒアリング
- 両者の意向や希望を確認しながら、実際のオープンデータ化・活用に関する調整・支援を行うことを想定

自治体・民間事業者の ヒアリング項目

1. オープンデータ化の意向
 - バリアフリー情報の提供の意向
2. 保有しているデータ項目
 - 情報の種類
 - データの管理方法
 - データベースの形式（紙、csvデータ等）
 - 項目名称
 - データの提供時に利用するデータフォーマット
 - 更新頻度・方法
3. オープンデータ化に係る課題・ボトルネック
 - 提供に際して想定される課題（オープンデータ化の許諾取得等）
4. 想定スケジュール
 - 提供可能な見込時期

アプリ事業者 ヒアリング項目

1. オープンデータ活用の意向
 - バリアフリー情報の活用の意向
2. 活用したいデータの種類の種類
 - 公開しているデータ項目
3. オープンデータの活用に係る課題
 - データの取込に際して想定される課題（データの変換等）
4. 想定スケジュール
 - 取込可能な見込時期
 - 一般公開の開始可能な見込時期



○Web調査は8月までに実施、ヒアリング対象を選定し、今後バリアフリー情報を持つ自治体・民間企業、バリアフリー情報をユーザーに提供するアプリ事業者へのヒアリング調査を実施

項目	2020年						2021年		
	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
Web調査	①調査の設計	▶							
	②Web調査の実施		▶						
ヒアリング調査	①調査対象の選定		▶						
	②ヒアリング調査の実施			▶					
オープンデータ化・活用促進	①オープンデータ化、活用に向けた調整・実施					▶			
	②取りまとめ						▶		